

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 千共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長崎哲夫
編集主筆 渡邊義彦
印刷所 株式会社きかんし



准允者を紹介する平良愛香議長(中央)

2013年度

教区総会報告

4

神奈川

総幹事報告

日本伝道、教区伝道を論点として

教区形成基本方針朗読を巡り議論

神奈川教区 第130回

神奈川教区総会は、6月29日、清水ヶ丘教会で正議員233名中183名出席で開催された。

議事日程承認に関する件が上程され、神奈川教区形成基本方針の朗読される直前に、議場から「この基本方針は、教団信仰告白および教憲教規の枠内で朗読されるものか」との発言があり、議論が始まった。「教区形成基本方針を朗読するならば、教団信仰告白は前提としてある」ということを議長団は明言してはった。

「基本方針は教区運営一致のために生み出されたものであり、決めつけをしないために今まで通り朗読すべき」との意見が続いた。その中で、「教区形成基本方針の代わりに、教団信仰告白を告白する」という議論の内に終わった。

ただ、教団と教区との関係からして、京都教区並びに沖縄教区総会では、今回も教団問安使を受け入れず、代わりに京都教区は後の何れかの常置委員会に教団議長を招くとの約束がなされ、将来に希望はある。

教団問安使について、「本教団はその教会的機能および教務を遂行するために教区を置く(教憲第6条)」とあることから、教団が派遣する問安使は教区総会に各教会教師・信徒が集まるこの機会をもって安否を問う

の動議が提出された。この動議にセカンドが付く前に、更に提出された動議に対する修正動議が出され、「動議案に加えて准允者の所信表明、および総会の場での質疑応答はせず、准允者の准允後挨拶を求める」修正案が提案された。

2つの動議は前案動議が、後案の修正動議に意見を含ませる形で一つにまとめられ提案された。修正案は179名中56名で否決され、原案通り、准允者の所信表明はなされ、准允式は

執行された。各種委員の選任に関する件において、北村慈郎氏が委員長である委員会があることに對して、議長団の見解を求める場面があり、「北村慈郎氏に関しては、免職を適用された教師として理解している。一方で教区では、教団総会での決定を受け入れ、教師として扱うことをやめている。ただ、もう一方では教区総会で教団の決定に対して反対をし続けている状態でもあるので、常置委員会で審議をし、

事進行修正案が提出され、178名中58名の賛成によつて、修正案は否決され、従来通り、教区形成基本方針は朗読された。

また、補教師の准允の執行方法について、議場から例年、議長が准允や按手をする時に「この度の試験が神奈川教区からみて不当とまではいえない」と発言することに関して、「教区の教師を立てるのではなく教団の教師を立てるのである」との意見から、「例年の議長

の発言はやめてほしい」との動議が提出された。この動議にセカンドが付く前に、更に提出された動議に對する修正動議が出され、「動議案に加えて准允者の所信表明、および総会の場での質疑応答はせず、准允者の准允後挨拶を求める」修正案が提案された。

2つの動議は前案動議が、後案の修正動議に意見を含ませる形で一つにまとめられ提案された。修正案は179名中56名で否決され、原案通り、准允者の所信表明はなされ、准允式は

執行された。各種委員の選任に関する件において、北村慈郎氏が委員長である委員会があることに對して、議長団の見解を求める場面があり、「北村慈郎氏に関しては、免職を適用された教師として理解している。一方で教区では、教団総会での決定を受け入れ、教師として扱うことをやめている。ただ、もう一方では教区総会で教団の決定に対して反対をし続けている状態でもあるので、常置委員会で審議をし、

を撤回し、教団のあるべき姿を求めたい」などの意見が飛び交う中、平良愛香議長は審議を打ち切り、採決した。148名中100名の賛成で可決された。

この時点で既に閉会予定時刻を過ぎる中、大阪市長橋下徹氏への抗議声明、および4・28「主権回復の日」記念式典に対する抗議声明がそれぞれ可決された。

それぞれの議案に賛成反対意見が寄せられる中、「土曜日に総会を開催する状況では、議論を深められない。このような場合、総会で採決せずに、常置委員会付託とできないか」という意見もあった。

(佐藤進報)

各教区総会を終えて

教団総幹事

長崎哲夫

本年各地で開催された教区総会には、何れも皆出席に近い総会議員の参加のもと、盛会の内に終わった。

ただ、教団と教区との関係からして、京都教区並びに沖縄教区総会では、今回も教団問安使を受け入れず、代わりに京都教区は後の何れかの常置委員会に教団議長を招くとの約束がなされ、将来に希望はある。

教団問安使について、「本教団はその教会的機能および教務を遂行するために教区を置く(教憲第6条)」とあることから、教団が派遣する問安使は教区総会に各教会教師・信徒が集まるこの機会をもって安否を問う

ため総会に出席し、教団として教区と教会との間柄を深め、互いに恵みを分かち合おうと願って今日までの歩みを進めて来た。

それ故に、問安使はまず教区総会のために、主の恵みと平和を祈り、教区と教会の負う宣教的課題を共有するのである。

今回、わたしもそうした願いを込めて各教区総会に出席させて戴き、皆に温かく迎えられた。その中で、幾つかのことが心に残ったので以下それらを書き記す。

まず、各総会とも開会礼拝に次ぐ按手礼・准允式・逝去教師と信徒の追悼礼拝

等実に厳かに、しかも喜びと感謝に溢れて献けられたことである。

これらの儀式は、日頃より地域社会の只中で様々な軋轢の中、孤独な闘いを強いられている教師にも信徒にとっても大きく深い信仰の励ましと慰めに導かれるものとなった。

更に、按手礼及び准允式も教団式文に沿って行われたことは、今後の教団にとって間違い無く健やかな歩みが約束されたものと確信

し感謝した。ただ、教区によっては賛美歌に「アーメン」を付けないのは何か理由があるのか。

財務報告を含むいわゆる法定議案に関しては、何処の教区にも手堅いものを感じた。更に、小教会に対する援助や互助の手が様々な配慮と工夫において血液の毛細管まで至るような支え合いと配慮が随所に見えた。

これらには、現在見直されようとしている「教区活動連帯金」制度の扱いとの関連もあり、関係者の注意深い扱いを期待する声があったことも事実である。

今回、教団議長挨拶の冒頭、教団はキリストと教会の一体性、洗礼と聖餐の一体性及びその秩序の確立が改めて強調され、一人でも多くの人が洗礼に導かれて聖餐に陪り、喜びに満ちた人生を送って戴くことが求められた。

この件を巡って、多くの総会で質疑があったが、それ以上の異議は出ず、問安した教区では、大きく信仰の一致を目指す意気込みがあることが感じとられた。

3月末のイースターに発足式を終え、直ちに認定子ども園運営・教育・保育の検討会を持った伝道推進室は、これを各地域に広げて実施しようとの計画がある。

平行して、いわゆるCコース受験者のための研修会開催と「ユースミッション2013」日独及び日米青

年交流会に對して多数の青年派遣等をもって伝道の実質的な成果を教区の協力のもとであげようとしていることを伝えた。

一方、これらによって浮上していることは、子ども園に幼児が集まらぬことや諸教会に於ける高齢信徒減少の波は止まず、諸教会の深刻な困窮の声を聞いた。

多くの教会に未だその動きが届いていないが、第37回教団総会期以来検討されている宣教基礎理論を巡る宣教研究所の第一次草案は、現在各教区に諮問されている。

これに對する批判もあるが40年前、教会の体質改善・伝道園伝道から発した教会の社会化路線は、行き着く所暴力主義に陥ったことも総括されずにはおかないだろう。

その他、注目すべきは北日本3教区等3・11の被災にも拘わらず、年金局並びに隠退教師を支える運動への協力が担当者によって果敢になされていることに驚きと共に感謝の思いを厚くしたところである。



6月17・19日、天城山荘(伊豆市)にて、2013年度新任教師オリエンテーションが開催された。出席者は77名(そのうち新任教師51名)であった。主題は「教団の教師として宣教を共に担う」であった。教師委員会としては、このオリエンテーションが、教団における宣教の働きの学びと共に、教団教師として、新しい出会いと交わりの恵み(同期の者が集まる唯一の機会)を味わう機会となることを願って準備に当たった。

日と教憲・教規による一致の重要性が強調され、その流れの中で、北村慈郎氏への戒規の意味が示された。夜には交わりの時がもたら、緊張が解きほぐされ、石橋議長に「お連れ合いから一番怒られたこと」、伊藤瑞男教団副議長に「牧会上の失敗談」、雲然俊美教団書記に「お連れ合いから一番怒られたこと」などを質問し、教団三役それぞれの話から、親近感を持つ時となった。

《特別講演》

2日目は先ず藤掛明氏

教師は召命、献身、教団によつて立てられ、教団に所属し、教団と契約関係にあること。契約の内容は信仰告白と教憲教規であることが強調された。

震災後2年が経過し、教会の再建が始まる一方、建

最後に長崎哲夫総幹事による講演「教会の担任教師の人事について」がなされた。

教規から見る教団の人事
の原則が語られ、教団は「招
聘制度」を採用し、各個教

き場において豊かに用いられることを心から祈りつつ、恵まれた新任オリエンテーションを終えることができ、感謝であった。

(吉澤永報)

米田、小林明氏（教団部落解放センター主事）が陪席者として出席した。開会礼拝の後、2012年度の諸報告、13年度の活動計画案・予算案の説明、各教団・教派の活動報告、部キ連九州の活動報告がなされ、その中で、自由メソヂスト教団、日本基督教団、基督教会、日本ナザレン教団、日本聖公会、日本カトリック司教協議会、日本キリスト教会、日本バプテリスト同盟、日本バプテスト連盟、近畿福音ルーテル教会、日本福音ルーテル教会、日本自由メソヂスト教団、日本基督教団。

教区総会取材が一段落し
本号で今年度
それぞれの総
会報告を終了
する。総会日

ところが、3日、20時間以上を会議に費やす。▼教区総会を取材していつも苦心するのが、これだけの時間をかけて審議された会議内容を限られた字数にどのようにつに切り取り表現するか、ということである。自ずと報告されない議事、発言があるのは当然で、会期中、議論が最も集中したことが、今年度、当該教区総会の中心となることであった、と報告せざるを得ない。

▼この雪愛の判断で記者の主観を全く排除できるか、というところはいかない。語られていないことを記すことなどはもちろん論外だが、議場で語られたことにはできる限り忠実に客観的な記者の判断が入る。確かに、ここが取材した記者たちの投量の見せ所とも言えるのだが。▼いずれにしても、議事録とは異なっており、上げに強弱がある。すべての議論の詳細な推移、決定は議事録を見てももらうしかないが、報告記事には固有の役割がある。▼会議の時間を共有した者として良く報告できるものとして、一年後の教区総会に向けて体制を整え、務めにさせて習熟して行きたい。

▼在日大韓基督教会・日本基督教団宣教協力委員会▲

礼拝を巡って両教会の課題を共有

6月10～11日、伊豆長岡温泉・八の坊にて、第47回在日大韓基督教会と日本基督教団との宣教協力委員会が、両教会の宣教課題と宣教協力「礼拝を巡って」のテーマのもとに開催された。

在日大韓基督教会からは、金武士総会長、趙重來副総会長、権寧国書記、朴太元副書記、崔榮信宣教委員長、李清一歴史共同研究委員、金健歴史共同研究委員、洪性完総幹事・歴史共同研究委員、曹泳石幹事、許伯基幹事が出席した。また、日本基督教団からは、石橋秀雄議長、伊藤瑞男副議長、雲然俊美書記、長崎哲夫総幹事、小橋孝一歴史共同研究委員、張田眞宣宣教協力「礼拝を巡って」のテーマのもとに開催された。



在日大韓基督教会 10 名、教団 11 名の参加者を得て開催

委員長の歴史共同研究委員、佐藤飛文歴史共同研究委員、加藤誠幹事、大三島義孝幹事、高田輝樹職員、嵯峨真美子職員が出席した。1日目は、金武士総会長の説教「言うべきことは、その時授けられる」(マタイ10章16～23節)による開会礼拝の後、出席者紹介、前回記録確認、両教会の紹介および東日本大震災の被災状況と救援活動の報告がなされた。

その後、夕食をはさんで、金健歴史共同研究委員が、「在日大韓基督教会の礼拝について―二重言語の礼拝についての考察―」と題し、自身の教会との出会いから献身に至るまでを話した後、現在の在日大韓基督教会の礼拝における言語の使用状況(混在型、分離型、

▼台湾協約委員会▲

青年交流プログラム派遣

れた。

一昨年の震災以降、多大なる献金と熱心な祈り、そして延べ250名を超える信徒・教師を被災地に派遣し、主にあるつながりをよみ、一層強固なものとなった台湾基督長老教会(以下PCT)と日本基督教団(以下教団)との宣教協約に基づいて、第38総会期においてもその豊かな交わりを推進してゆくために、5月21日、日本基督教団会議室において「第38総会期第1回台湾協約委員会」が開催された。

招集者である田中文宏前委員長(真駒内)の祈祷をもって開会し、最初に委員会を組織。委員長に田中文宏、書記に野田沢(学生キリスト教友愛会)を、祈りをもって選出した。

隔年で開催地を日・台の持ち回りで行われているPCTとの「教会協議会」開催に向けての準備に関して中心に話し合われ、特に次回(日本での開催)というところもあって熱心に議論が交わされた。前回開催時には時間的なものから交わせなかった共同声明ではあったが、次回開催の協議会においては、伝道、原子力発電、青年、信仰の継承、平和、自然災害などが挙げられ、日本における開催場所も、向性と事前準備について話し合われた。

また共同声明と協議会自体のテーマは密接に関係することもあり、協議会テーマについて話し合い、現在の日台双方の共通の課題として、伝道、原子力発電、青年、信仰の継承、平和、自然災害などが挙げられ、日本における開催場所も、

▼予算決算委員会▲

2012年度決算を承認

第38総会期第2回予算決算委員会が6月10日から11日に教団B会議室において行われた。

教団2012年度第2次補正予算に関して検討を行い承認した。この中で確認されたことは、予算主義の原則は大切にすること、しかし年度当初では想定できないこともあるので、その際は正規の手続きを経てから執行することが求められる。たとえば委員会費、交通費など予算を超えるものが出る場合には幹事会の承認

委員会コラム

世界宣教委員会は、教団が海外の諸教会との交わり、宣教協力をするすべての働きを一手に引き受けている委員会です。宣教師を送り出し、海外からの宣教師を迎え、それらの一人ひとりがどのように生きた働きをしているかについて連絡を交し、諸教会や学校等に伝える働き

のほかに、海外からの訪問者の受け入れ、WCCやEMSなど海外宣教団体の会議への参加等、多岐にわたります。傘

ななどにおいては教育委員会との協力の必要性などが話し合われた。

最後に、様々な困難の中にあっても台湾をはじめ世界で活躍している宣教師の働きと状況を分かち合い、祈祷を持って開会した。

(野田沢報)



上段左から、杉山(職員)、高田(職員)
下段左から、野田書記、田中委員長、李

事務局報

教師異動

原町田	辞(代)小栗善忠	高蔵寺ニータウン	辞(主)中山実
玉川	就(担)伊藤多香子	就(主)岩淵正樹	就(主)前田和之
金沢	辞(主)横井伸夫	就(代)加藤幹夫	辞(代)池田春善
北陸学院中学・高校	就(教)堀岡満喜子	豊橋	辞(主)前田和之

伝道推進室「夏期研修会」

- ◎日 時 2013年8月12日(月)～14日(水)
- ◎主 題 「伝道者、牧会者として立つために」
- ◎講 師 石橋秀雄(教団総会議長)・林憲郁(東京神学大学教授) 小泉健(東京神学大学准教授)・深谷松男(法学者:金沢大学名誉教授)・小林眞(遠州教会牧師)・高橋力(東北教区巡回教師)
- ◎チャプレン 小島誠志(久万教会牧師)・大隅啓三(隠退教師)
- ◎会 場 東京神学大学(礼拝堂・集会室)
- ◎参加費 3,000円(食事付／交通費と宿泊は各自自弁で手配)
- ◎申込先 七條真明(高井戸教会、TEL 03-3333-2465、FAX 03-3333-2470)
- ◎〆 切 2013年8月5日(月)
- ◎対象者 教規第3条6項による者(Cコース出身者および受験者)ならびに2009年以降に准允を受けた教師
- ◎プログラム 詳細は教団公式サイト uccj.org をご覧ください。

(教団総会議長 石橋秀雄)